



# わが スタディグループ



## JDHC

- ・会長 上本 桃子（医療法人未来会 デンタルオフィス八丁堀、アツギトレリス歯科）
- ・副会長 菅谷布美子（埼玉県・いわき歯科医院）
- ・設立 2014年
- ・会員数 約80人（2017年4月現在）
- ・主な活動 歯科衛生士の社会的地位向上、歯科衛生士としての知識と技術のスキルアップ、歯科衛生士を生涯の仕事としていくためのサポート、世界基準の歯科衛生士の育成
- ・会合の頻度 年1回の会員総会、年3、4回の役員会、年7回LAコースのアシスタント
- ・問い合わせ先 [事務局] 千葉県松戸市小金原9-17-47

TEL 047-340-3866

担当：山中

## 発足のきっかけ

在は4期生を募集しています。

ルライセンスを持つ藤森直子先生が、世界基準のテクニックを指導しています。

J D H C は、 U S C (南カリフォルニア大学)、 U C L A (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)、 N Y U (ニューヨーク大学)などの海外卒業継続教育コースを修了した歯科医師の中で、歯科衛生士教育の重要性を感じた歯科医師が立ち上げたスタディグループです。歯科衛生士コースの卒業生を中心に活動中で、約80人の歯科衛生士が会員となつてお

り、現

で日系アメリカ人の父を持つ早田晃子リネー(神奈川県・321デンタル・6月開業予定)、新保城一(千葉県・しんぽ歯科医院)、辻村傑(神奈川県・つじむら歯科医院)、高橋周一(東京都・レミントン歯科)らが、全米審美歯科学会元会長のボールドウイン・マーチャック先生を顧問に迎えました。また、メイン講師には

## 活動内容

現在の活動は、LAコース研修の企

画・開催、海外の歯科医師・歯科衛生士との情報交換・交流を行つています。

J D H C は「JDHC evolution!! ~生涯、樂しみながら活躍出来る歯科医師・歯科衛生士のコミツティ~」というスローガンの下に、知識の習得・スキルアップはもちろん、D H の地位向上を目的とした、世界を目指したD H 部会です。現在は、会員向けて医院の見学ツアーを企画し、各医院の業務内容や特徴を学べる場を設けています。また、会員向けの意見交換会、症例報告相談会、スキルアップセミナーなども企画・開催しています。



UCLAキャンパスツアーを、ナディア教授自ら案内。



マイクロスコープの実習中。

今後は、JDHCとしての活動はもちろん、多くの人にDHの仕事を知つてもらうために、一般の人々に向けた公開セミナーも企画していく予定です。離職率が高いDHという仕事を生涯続けていきたいと思える環境づくり、復職のためのサポートをしていくような場でもあります。

## 当グループの良いところ

LAコースではDHの自立を支援するプログラムを受講することができます。検査、診査、診断、予防プログラムの作成、自費予防メインテナンスを一連の流れで学ぶことができるため、各診療所で実践しやすいのが特長です。プログラムの最終日には各自症例発表を行います。今まで学んで来たことをまとめ、人に伝えることにより、プレゼンテーション能力の向上を図ることができます。

このプログラムは7回のコースになつており、同じメンバーで何度も集まるため、お互い親しくなり、DHとしての悩みや症例の疑問などを話し合うことがで

きます。さまざまな医院のDHが集まるので、一つの症例に対しても多様な見解があり、それを話し合つたり聞いたりできるのも魅力です。

アメリカの衛生士業務をロサンゼルスで直接見たり、現地のDHと話す機会もあり、今後の自分の働き方を見つめ直すきっかけになる受講生も多いです。日本とはまた違うDHの働きを知り、さらに視野を広げることができます。

日本ではまだDHの社会的地位が低く、アメリカのように子どもたちの憧れの職業の上位に上がることもありません。しかし、このJDHCはまだ3年目の若いグループではあるものの、すでに80人のメンバーがあり、これからも増え続けるでしょう。この大きな力を日本のDHの社会的地位向上につなげられるような活動を考えています。

LAコースでは、各講義の後にレポートを提出することになっています。テーマもさまざまで、内容も優しいものから難しいものまであります。提出期限に間に合うよう、全員が毎回必死に取り組ん

でいます。小さな子どもを寝かしつけた後、夜中までかかつてレポートを仕上げる受講生も少なくありません。また、筆記と実技の試験もあるので、予習復習して次の講義に備える必要があります。

またそれとは別に、英論文の翻訳とう課題も出されます。英語から遠ざかって久しい受講生も多く、多大な時間と労力がかかることになります。しかし、努力して調べたものは自分の力となり、新たな知識となつて日々の臨床の場で生かれます。苦労して調べた英単語は、このコースの最後に行くLAで、現地のDHとの会話に役立ちます。

## 今後の予定・展望

JDHCの目玉であるLAコースでは、DHが自ら学び考える力がつく仕組みになっています。資料取りから検査、そしてSRPまで一貫して学ぶことができるのがLAコースの強みです。4期からはUSCにおいて2日間のハンズオンコースや、元全米歯周病学会の会長ジョアン・オオトモ先生のレクチャーなどを

予定しており、テクニックや知識のレベルアップはもちろん、学んだことを実際に臨床で発揮して症例報告を行うことにより、学びだけで終わらない流れになっています。そのため、臨床に当たつて考えながら行動し、自立したDHへと成長できます。

症例報告はコースで学んだ内容を基に作成するのですが、内容はさまざまで、



マー・チャック先生のオフィスにて、シェーン教授によるDHのためのエンドについて講義を受ける。



藤森直子先生によるSRPの実習。

勤務先の医院や個々のDHのカラーが見えてきます。参加しているDHの環境はさまざま、子育て中の会員や、飛行機や新幹線に乗つて遠方から参加している会員も少なくありません。どんな環境でも参加したいと思えるような場をつくることが目標になっています。

「生涯、楽しみながら活躍出来る歯科衛生士のコミニッティー」のスローガンの

通り、毎回楽しいものになるように、JDHCでの活動内容を決めるのはDH自身です。日ごろの臨床で疑問に思つていることや興味のあること、それぞれ意見を出し合い、相談しながら形にしていきます。他院のDHと話せるのも新鮮で、年齢やキャリアの関係なく横のつながりを大切にし、学術的な面での成長だけではなく、女性特有のライフステージに起る悩みなども相談し合えるような場であります。

先日行われた「ワールド・カフェスタイル」でJDHCの活動内容を話し合つた際も、「復職サポート・ブランク挽回セミナーを開催しては?」「JDHCのオリジナル商品を作りたい!」など、さまざまな意見が飛び出しました。メンバーの志は高く、世界に通用するDHのスタディグループにしたいと考えています。

自ら学ぶ自立した歯科衛生士を育て、日本での社会的地位の向上を目指して着実に進んでいくことが、JDHCの目標です。

## 第3期 DH LA コース 研修報告

日程は2017年3月4日～9日で、USC(南カリフォルニア大学)、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)の協力の下、有意義な研修となった。



元全米歯周病学会会長のジョアン・オオトモ先生のオフィスにてレクチャーを受ける。



お世話になっている先生方。左から辻村先生、早田先生、UCLAのナディア教授、シェーン教授、新保先生。



USC歯学部衛生士科主任のダイアン・メルローズ先生のご厚意により、総勢50人のインストラクターに参加してもらい、ワンフロア貸し切っての大規模な研修を行った。

[第4期募集中] 詳細は下記URL参照

<http://dentalhygienist.co.jp/entry2017/>

### 研修に参加して 受講者：上本桃子

最終日のディナーで、一人ずつ順番に感想を言っていた。自分の番が来た時、涙が出そうになった。頭の中でいろいろな思いが駆け巡った。

受講のきっかけは、DHになって丸5年、仕事に対して新鮮さを失いつつあったころ、「口腔内写真 唾液検査 アメリカ」とネットで検索したこと。講義では毎回宿題と課題が出るのに加え、英論文翻訳と症例発表の準備が必要だった。初めてのことに戸惑い苦戦したが、自分より年下の人や、毎回新幹線や飛行機で来ている人、家庭を持ち子育てと仕事を両立しながら参加している人がいるのを見て弱音は吐けなかった。

講習会の次の日は、学んだことを早く実践したくてうずうずした。回を重ねるごとに、年齢や環境は違えど、同じ職種の仲間と勉強できることがとても楽しく思えた。そして、講義を受けていく中でDHの役割や必要とさ

れていることが見えてきた。

私の中で軸になっている教えるがある。「歯科治療は掛け算。どこかでエラーが起きれば、どれだけ大きな数字を掛けていてもゼロになる」。DHに置き換えると、エンドのスペシャリストが治療しても、手を尽くしたクラウンを入れても、歯肉の状態が悪ければゼロになるし、予防ができずにカリエスが出来ればゼロになるということだと思っている。

アメリカの歯科衛生士・歯科医師は、私にプロフェッショナルという言葉の意味を教えてくれた。それは歯科におけるDHの役割の重要性を認識させるものだった。

私がディナーで泣きそうになってしまった理由は、DHの価値を認めてくれる存在に囲まれ、その中で自分が決めたことを最後までやり遂げた達成感からだったのだろう。JDHC関係者の皆様、職場、友人、家族、その全てに感謝の思いを捧げたい。

## 第3期生への課題論文

### 「非外科歯周療法による重度歯周病ケースの患者に 対しての12年間にわたるフォローアップ」

João Carnio, DDS, MS; Ana Karina Moreira, DDS; Todd Jenny, DDS;  
Paulo M. Camargo, DDS, MS, MBA; Flavia Q. Pirih, DDS, PhD

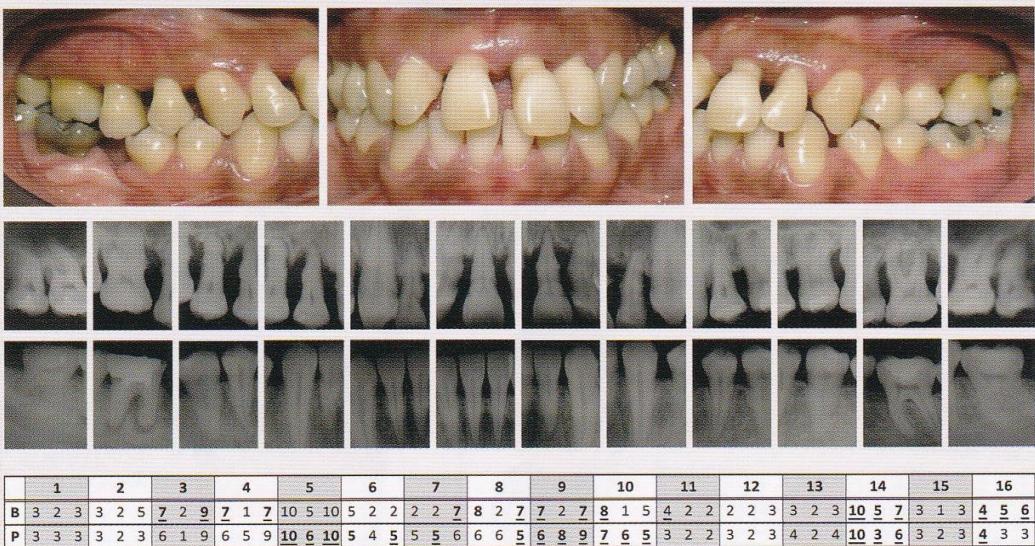


Figure 1. Clinical photographs, radiographs, and probing depth measurements at baseline. Alveolar bone levels were dramatically different on the maxillary and mandibular arches. A bold and underlined number denotes bleeding on probing. B: Buccal. P: Palatal.



Figure 4. Clinical photographs, radiographs, and probing depth measurements at 12 years postperiodontal therapy. A bold and underlined number denotes bleeding on probing. B: Buccal. P: Palatal.

上顎のフレアーアウトを主訴に来院した、重度慢性歯周炎に罹患した38歳男性の患者さん。いくつかの治療法を提示し、患者さんが選択した非外科歯周療法を行った。上顎歯列は矯正治療を施し、12年間、3ヶ月ごとのメインテナンスを行い、良好な経過を維持しているという。

日本の歯科衛生士教育では行われていない、米国式の論文抄読授業に臨むために、基礎的な用語を学びやすい文献を毎年選択している。今回は慣れない翻訳に戸惑いながらも、ロサンゼルスでこの論文を基にディスカッション形式の授業を初めて受けた。